

# マスタープランに基づき、各キャンパスで整備が進行中 東北大学新キャンパス構想

## 青葉山 キャンパス

### センタースクエアが完成

東キャンパスのシンボルとなる中央棟がオープンし、センタースクエアが完成。前庭の緩やかなスロープを受けとめる緑に囲まれた伸びやかな配置。1階は吹抜けの「あおば食堂」と貸し切りも可能なスペースである「DOCK」、2階は学会も開催可能な大講義室(378席)と大会議室(200席)、国際交流室、3階は事務カウンターと会議室がある。建築、ランドスケープ、インテリア、サインと各分野の著名なデザイナー陣のコラボレーションによって、青葉山のイメージを新しく発信する、お洒落でカッコイイ空間となっている。



## 青葉山新キャンパス

### 基盤整備が進行中

竜ノ口沢に沿って配置された新キャンパスのメイン動線となるキャンパスモールやキャンパス commons など、緑とにぎわいあふれるキャンパスライフの中心の場となる街路空間や、電気・上下水道等エネルギー基盤の整備が進行中である。



## 東北大学キャンパスバスの運行を開始

市内に分散配置されている片平、雨宮、星陵、川内、青葉山キャンパスと学生寮のある三条地区を結ぶ、学生・教職員のための無料バスサービス「キャンパスバス」を、2010年の4月から運行している。学生の通学、講義、課外活動等での移動、教職員の公務・講義等での移動に利用できる。詳細はキャンパスバス web ページで。  
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/keiyaku/campusbus/campusbus.html>



## 星陵 キャンパス

### スマート・エイジング国際共同研究センターが完成

星陵キャンパスを東西に貫く北六番丁に面して、超高齢社会における新たな統合的加齢科学分野を切り開くための、国際的な研究拠点が完成。周囲との調和を図ったレンガ色の壁をベースにしながら、北六番丁へ向けた南側ファサードに、白いリボン状の庇が折れ曲がりながら上部へと繋がり、各階に開放的なテラスと交流スペースを提供している。建物前面の空間は、北六番丁沿いに計画されているキャンパスストリートの一部となるよう緑豊かな芝生広場としてデザイン。キャンパスストリートは、医学部、加齢医学研究所、歯学部、病院をつなぐ、星陵キャンパスの骨格となるオープンスペースで、緑豊かな交流の場として今後も整備を進めていく予定である。



## 片平 キャンパス

### 片平北門会館食堂棟がオープン

片平キャンパスのメインエントランスである北門前に、外国人研究員等宿泊施設と学生寮、売店、食堂等の機能をもった片平北門会館が建設中であり、先行して食堂棟がオープンした。1階はカフェテリア形式の「さくらキッチン」、2階は落ち着いた雰囲気の「レストラン 萩」で構成された食堂棟は、既存の桜などの樹木を活かし、屋外と一体となった吹抜けの開放的な空間で、ゆったりと食事を楽しむことができる。来年には隣接する宿泊棟も完成予定である。



### インテグレーション教育研究棟が完成

大正14年築の旧東北帝国大学工学部金属工学教室の外壁を活かしつつ、新たな研究・教育施設として再生したインテグレーション教育研究棟が完成。歴史的建造物を活かしたオフィス棟と、新たに増築したラボ棟からなり、この2つをアトリウムで結んだ施設計画となっている。また周辺では「開かれたキャンパス」を実現するための、北門周辺の再整備も進行中である。

